

# 山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用  
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援  
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671200210
法人名	社会福祉法人 妙光福祉会
事業所名	寒河江やすらぎの里 認知症高齢者グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 9 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	671200210		
法人名	社会福祉法人 妙光福祉会		
事業所名	寒河江やすらぎの里 認知症高齢者グループホーム		
所在地 (電話番号)	山形県寒河江市本楯二丁目24番地1 (電話) 0237-83-0596		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年11月5日

## 【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	13.25 人

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造一部s 造り	1階建ての 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.9 歳	最低 73 歳	最高	97 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	寒河江市立病院 井上歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全職員で作り上げた「住み慣れた地域で笑顔ある安心した生活」という新しい理念のもとに、利用者やその家族にとって、このグループホームが「もうひとつの我が家」となること目標にした支援が行われており、また、多方面からの様々な知恵やアイデアを上手に生かしながら、「地域に根づいたグループホーム」となることをも目指しています。  
「積極的で前向きな姿勢」と「素直な心」を管理者と一人ひとりの職員が持っており、利用者それぞれの思いや希望を少しでも多く叶えられるケアにも取り組んでいる、歌声・笑い声・笑顔が絶えない明るいホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 同業者との交流を通じた向上の取り組みとして、市内にあるグループホームの視察研修に加え、グループホーム協議会の交換研修や市内にあるグループホームとの勉強会も行われている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義や目的を職員に十分伝えており、各ユニットごとの主任・副主任が中心となり、サービス評価に取り組んでいる。また、評価で出された課題については職員会議で話し合い、改善に向けて検討されている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を二ヶ月に一度開き、外部評価の結果や評価の過程で明らかになった課題、今後取り組んでいきたいテーマ(地域交流など)についての報告や話し合いが行われており、参加者から出された意見や希望を聞きながら、その改善策についての話し合いが行われている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) グループホーム職員および外部の人にも意見や苦情を伝えられることを家族にも説明している。また、福祉サービス相談員の活用や苦情解決委員会の設置もあり、家族が意見や苦情を出しやすい環境・体制づくりをしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一人として自治会に加入しており、地区の「春みこし」や地域活動にも参加して、地元の人々と交流することに努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「住み慣れた地域で笑顔ある安心した生活」というグループホーム独自の理念を、職員全員で話し合いながらつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ケース会議の中で理念について話し合う機会を設けている。また、ミーティングや申し送りの時にも理念について触れ確認しており、臨時職員を含む全ての職員が理念の中身を理解している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入しており、地区の「春みこし」や地域活動にも参加して、地元の人々と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価及び外部評価を実施する意義や目的を職員に十分伝えており、各ユニットごとの主任・副主任が中心となり、サービス評価に取り組んでいる。また、評価で出された課題については職員会議で話し合い、改善に向けて検討されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度開き、外部評価の結果や評価の過程で明らかになった課題、今後取り組んでいきたいテーマ(地域交流など)についての報告や話し合いが行われており、参加者から出された意見や希望を聞きながら、その改善策についての話し合いが行われている。		

山形県 寒河江やすらぎの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは書類提出などで行き来する機会が多くあり、グループホームの実情や考え方を伝えたり、情報を提供してもらい、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態は面会時、電話、年4回開かれる家族懇談会でのビデオ放映などにより家族に報告されている。また、毎月の金銭出納状況の報告や職員異動の報告も行われている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	グループホーム職員および外部の人にも意見や苦情を伝えられることを家族にも説明している。また、福祉サービス相談員の活用や苦情解決委員会の設置もあり、家族が意見や苦情を出しやすい環境・体制づくりをしている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者との職員の馴染みの関係が継続できるように、職員の異動は最小限にしている。また、やむを得ず職員が交代する場合には職員間の引き継ぎを十分行うこと、年齢や経験を考慮したバランスのとれた職員配置を行うことについても心がけており、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の勤務年数や職種に応じた法人内外の計画的な研修の実施、また、伝達講習による研修報告の機会が設けられている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に加入しており、交換実習への参加と受け入れを積極的に行っている。また、市内のグループホーム同士の視察や勉強会なども行い、サービスの質を高めていく取り組みを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの思い、喜び、悲しみを否定することなく受け入れている。また、梅干しや青菜漬けの作業工程を利用者から教えてもらうなど、一人ひとりが得意な分野で力を出してもらい、互いに支え合う関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの関わりの中で、利用者一人ひとりの思い、希望、意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な方の場合には家族から話を聞いたり、本人の表情・しぐさ・行動からも本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の思いや意向にも配慮しながら、また、日々の暮らしの中からも気づきやアイデアを出し合って、利用者一人ひとりを支える個別・具体的な介護計画を職員全員で作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度介護計画の実施状況や効果についての評価が行われている。また、本人に変化があった場合や家族からの要望があった場合は、全職員が参加して話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<b>【小規模多機能型居宅介護のみ】</b> ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族が希望する、馴染みのかかりつけ医になっ ており、受診の際は家族に同行してもらう場合が多い が、緊急時や都合のつかない場合は職員が付き添うよ うにしている。また、家族への情報伝達や話し合いも行 われており、適切な受診につなげられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期に向けた明確な指針はまだ整備され ていないものの、管理者はその必要性を十分に認識し ており、関係者と話し合いを行うこと等の取り組みも検 討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者一人ひとりの誇りを守るため言葉遣いに特に気 をつけており、利用者に恥ずかしい思いをさせない、さ りげない介助に努めている。また、記録やメモは事務所 で行うようにしており、個人情報の取り扱いにも十分に 注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが「その日に何をしたいか」「何を今し たいか」の把握に努めている。また、買い物や散歩、歌 や体操などを取り入れながら体調管理にも注意してお り、それぞれの状態や思いに配慮した希望に沿った支 援がなされている。		

山形県 寒河江やすらぎの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園で作った野菜を使う、嚙下体操を行う、利用者と一緒に準備や後片付けを行う取り組みは行われているが、「検食」を食べる一人以外の職員は利用者の安全面を考えて見守りや介助にまわっており、利用者と職員が同じ食卓で同じものを一緒に食べるスタイルはとっていない。	○	利用者の安全面に配慮しつつも、利用者と同じ食卓で同じものを一緒に食べることを通して、利用者にとっての食事がさらに楽しいものとなるよう、また、認知症高齢者グループホームがもつケアの特性を今まで以上に生かした食事となるよう工夫してみることも期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の入浴希望を確認し、利用者が一緒にお風呂に入れる機会を設けたり、夜間の入浴も行われている。また、入浴を拒む入居者には、時間を置いて勧めたり、他の職員が対応したりしており、利用者一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農園作業、梅干しや青菜漬けづくり、じゃがいも堀り、草取り、癒し犬の餌やりなど、利用者の知恵、経験、特技を発揮してもらい、今ある力を活かした役割や仕事をしてもらっている。また、保育園との交流やドライブ、歌などの楽しみごとや気晴らしの支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望やその日の天気により、散歩、ショッピング、畑仕事、外食など、戸外に出られるようにしている。また、歩行困難な方でも、歩行器や車イスを利用して外出する積極的な支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの外出傾向を職員が把握しており、見守りとセンサーチャイムにより、日中は玄関に鍵をかけずに利用者の自由な暮らしを支えている。また、鍵をかけることによる利用者への弊害を全職員が理解しており、利用者の安心と安全にも考慮して取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルが作成されており、火災や地震を想定した避難誘導訓練、招集訓練、消火訓練など、昼と夜の両方の時間帯で行っている。また、非常食や非常用飲料水、毛布などの備蓄品も準備されている。		

山形県 寒河江やすらぎの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食べる量や水分量を毎日チェック表に記録しており、職員間で内容を共有している。また、食材の委託業者でもカロリー計算を行ってもらっており、栄養摂取量の把握がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭からやさしい光が差し込み、心地よい風が吹き抜ける共用空間の壁には、季節を感じさせる装飾やカレンダー、大きな見やすい時計があり、ゆっくりと時が流れている。また、ご飯が炊きあがる匂いがしたり、心地よい音楽も流れる、心地よさを採り入れた空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは自由であることを本人や家族にも伝えており、利用者が使い慣れたテーブル、テレビ、目覚まし時計、写真などが持ち込まれ、一人ひとりが快適に過ごせる場所になっている。		